

第21回

三重県文化賞受賞者名簿

三 重 県

第 2 1 回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という。）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成 13 年度の第 1 回表彰から令和 2 年度の第 20 回表彰までの受賞者数は 280 名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第 21 回目になる今回は、令和 3 年 8 月 2 日から 10 月 1 日まで募集を行ったところ、45 名の方からの推薦があり、受賞候補者は 44 名となった。

【募集結果】

受賞区分	推 薦 数	受賞候補者数
文 化 大 賞	7	7
文化功労賞	10	10
文化奨励賞	18	17
文化新人賞	10	10
計	45	44

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等 10 名で構成する第 21 回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って 2 名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った 2 名は、いずれの活動、功績とも素晴らしく優劣をつけが

たいものであったが、学術分野（地域伝統文化の保存啓発活動）の川口祐二さんを選出した。

文化功労賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って6名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、生活文化分野（書道）の佐々木洸舟（本名：佐々木文子）さん、伝統芸能分野（民謡・三味線）の谷本善聖さん、音楽分野（合唱）の養正コーラスの3名の選出となった。

文化奨励賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って11名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、美術分野（陶芸）の稲垣竜一さん、写真分野の岡村仲江さん、写真分野の野瀬みつ子さん、美術分野（美術工芸・染色）の廣山三千代さん、文学分野（俳句）の前田典子さんの5名を選出した。

文化新人賞は、「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って7名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、音楽分野（作曲及び音楽イベントの実施）の小林純生さん、その他分野（建築）の佐藤敬さん、音楽分野（ピアノ）の村山響さん、美術分野（彫刻・立体造形）の山田風雅さんの4名を選出した。

選考結果をみると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化レベルの一層の向上に寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞者を分野別で見ると、文学分野1名、美術分野3名、音楽分野3名、写真分野2名、伝統芸能分野1名、生活文化分野1名、学術分野1名、その他分野1名であった。

文学分野、美術分野、音楽分野での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われる一方、伝統工芸分野等の推薦が少なかったことから、文化賞の広報活動を推進し、認知度を上げ、今後、幅広い分野からの

推薦をいただけることを期待する。

なお、今回は大賞から新人賞までバランス良く推薦があったものの、推薦件数は昨年度より7件少ない45件であったことから、第22回以降は、より多くの、そして、より多彩な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上のための礎となることを願う。そのためにも、三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

第21回三重県文化賞選考委員会

(受賞者名は各賞五十音順)

第21回三重県文化賞受賞者

(受賞者名)	(住所)	(活動分野等)
〔文化大賞〕 川口 祐二 (89歳)	南伊勢町	学術分野 (地域伝統文化の保存啓発活動)
〔文化功労賞〕 佐々木 洸舟 (73歳) (本名:佐々木 文子) 谷本 善聖 (73歳) 養正コーラス	津市 名張市 津市	生活文化分野(書道) 伝統芸能分野(民謡・三味線) 音楽分野(合唱)
〔文化奨励賞〕 稲垣 竜一 (55歳) 岡村 仲江 (74歳) 野瀬 みつ子 (64歳) 廣山 三千代 (68歳) 前田 典子 (81歳)	四日市市 四日市市 松阪市 桑名市 伊勢市	美術分野(陶芸) 写真分野 写真分野 美術分野(美術工芸・染色) 文学分野(俳句)
〔文化新人賞〕 小林 純生 (39歳) 佐藤 敬 (34歳) 村山 響 (31歳) 山田 風雅 (24歳)	東京都 (菟野町出身) 東京都 (桑名市出身) 津市 亀山市	音楽分野 (作曲及び音楽イベントの実施) その他分野(建築) 音楽分野(ピアノ) 美術分野(彫刻・立体造形)

(各賞五十音順、年齢は令和4年5月29日現在)

賞別：文化大賞

活動分野等：学術分野（地域伝統文化の保存啓発活動）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>かわぐち ゆうじ 川口 祐二 (89 歳)</p>	<p>南伊勢町</p>	<p>氏は、昭和 63 年に岩波新書別冊「私の昭和史」に掲載された論文「渚の 55 年」が文芸評論家加藤周一氏に評価されたことを契機に、沿岸漁場の環境問題や漁村文化、海女文化を記録するために聞き書きを開始した。以来、30 年以上にわたり、全国の漁村を行脚し、800 人以上の人々と出会い、20 冊以上の聞き書き集を出版してきた。聞き書きの資料は変遷する漁村文化、海女文化の学術的資料として一部がデジタル化され、三重大学図書館にアーカイブスとして保存されている。</p> <p>また、三重大学の講座「日本の海女文化」の講師を平成 20 年から令和 2 年まで務めたほか、南伊勢町町民文化会館などにおいて、講演会や生涯学習講座の講師として渚の汚染を訴え、環境保全の大切さを啓発してきた。</p> <p>これらの活躍により、平成 6 年に三上賞、平成 13 年に田尻賞、平成 20 年に自然環境功労者環境大臣表彰、令和元年に石原円吉賞特別賞など、数多くの功績を収めた。</p> <p>その他にも、南伊勢町町民文化会館の指定管理者である N P O 法人みなみいせ市民活動ネットのアドバイザーを務め、文化フォーラム「野口雨情と南伊勢」等の施策をはじめ、講演会や生涯学習講座の運営について貴重で具体的なアドバイスを行い、同文化会館が南伊勢町の文化発信拠点としての役割を果たす上で多大な貢献をしてきた。</p> <p>氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：生活文化分野（書道）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>さ さ き こうしゅう 佐々木 洸舟 (本名：佐々木 文子)</p> <p>(73 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、平成4年に賞状技法士1級の免許を取得し、筆耕業務を開始した。これまで、各所から依頼を受け、皇室への賀詞や三重県出身のオリンピックメダリストへ授与する三重県民栄誉賞、椿大神社の由緒書、柘植の斎王群行のぼり、岡田文化財団主催の瀬戸内寂聴記念講演会の題字など、数多く揮毫してきた。</p> <p>平成5年からは洸舟書道教室を開講し、これまでに師範資格取得者を多く輩出した実績があり、字の上達はもちろん、礼儀、集中力、チャレンジ精神を養い、将来につながるよう指導を行っている。</p> <p>また、自らも平成25年、29年に日展（改組日展）入選、平成28年、29年に日本書芸院大賞、平成28年に三重県書道連盟展知事賞を受賞するなど数多くの優れた功績を収めてきた。</p> <p>さらに、津市勤労青少年ホーム書道講座や津市安濃中央公民館書道講座、津市内の小学校の特別講座の講師として、筆文字の面白さや書く喜びを伝えている。</p> <p>その他に、銀行や郵便局、公民館などで書道展を開催し、地域の方々に漢字や平安時代に生まれた仮名文字の作品を身近で見ていただき、心豊かな時間を取り戻し、楽しんでもらう活動を行っている。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：伝統芸能分野（民謡・三味線）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>たにもと よしまさ 谷本 善聖</p> <p>(73 歳)</p>	<p>名張市</p>	<p>氏は、昭和 57 年に梅若流梅若朝乙氏に師事し、昭和 59 年に師範資格を取得した。その後、昭和 62 年に独立し、「日本民謡和泉会」を設立以降、30 年以上にわたり伝統文化としての日本民謡の普及と発展に尽力してきた。</p> <p>個人としては、「輝け民謡大賞三重県選抜大会」において準優勝の知事賞を 3 回受賞したほか、日本民謡協会近畿中央連合大会の審査員を務めるなど、その実力は高く評価されてきた。</p> <p>また、「日本民謡和泉会」の門下生や「名張音頭保存会」子どもの部、名張市内の小学校の生徒に対して、民謡、三味線だけでなく、礼儀作法についても指導をするなど、後進の育成に尽力しており、各種大会において優れた成績を収める門下生も輩出している。</p> <p>これらの功績により、平成 24 年に公益財団法人日本民謡協会功労章、平成 30 年に産経新聞社民謡功労章を受章した。</p> <p>さらに、平成 27 年からは公益財団法人日本民謡協会東近畿連合委員会の委員長、令和元年からは名張文化協会の副会長、令和 2 年からは三重県民謡民舞連合会の会長を務めており、日本民謡の普及、発展及び地域の文化興しに貢献してきた。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：音楽分野（合唱）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>ようせい 養正コーラス</p> <p>(代表：<small>とうどう</small> 藤堂 <small>ちあき</small> 千秋)</p>	<p>津市</p>	<p>当団体は、昭和 42 年に津市立養正小学校 P T A コーラスとして、団員 10 名で発足した。その後、昭和 58 年に津市立新町小学校 P T A コーラス「コールクローバー」と合併し、平成 4 年からボイストレーナーとして松橋昌子氏、平成 7 年から指揮者として鈴木捺香子氏を迎え、現在は 40 代から 80 代までの団員 29 名で活動している。</p> <p>津市民音楽祭など地域イベントへの参加やコンサート活動にも意欲的に取り組んでいるとともに、毎年、全日本おかあさんコーラス全国大会出場を目標に掲げ、美しいハーモニーを目指して週 1 度の練習を重ねている。</p> <p>これまでに、全日本おかあさんコーラス全国大会では、最高位の「ひまわり賞」を 5 回受賞。カトリア杯おかあさんコーラスフェスティバル合同発表会では、ミューズ賞を 8 回受賞。平成 17 年には、三銀ふるさと三重文化賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、平成 10 年に開催した 30 周年記念コンサート以降、節目の年ごとにコンサートを開催しているほか、県内の他の合唱団と合同コンサートを開催するなど、本県の音楽文化の普及に貢献してきた。</p> <p>当団体のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：美術分野（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>いながき りゅういち 稲垣 竜一 (55 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、平成元年に大阪芸術大学工芸学科卒業後、山田光氏に師事し、本格的に作陶を始め、平成2年には1年間世界各国を廻り、各地の作家と交流し、世界の陶芸を学んだ。その後、平成4年から天水窯にて作陶生活に入り、父の稲垣太津男氏をはじめ、幾人もの師から学び、平成4年に「国際陶磁器展美濃」で入選、平成7年に「四日市市美術展」で市長賞、平成8年に「朝日陶芸展」で入選、平成12年に「東海伝統工芸展」で入選するなど、数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、平成13年、14年にはイギリスで開催された国際的な陶磁器フェスティバル「POT F E S T」に参加し、日本文化、陶芸、四日市萬古焼をアピールして、各国の陶芸家と交流を図った。</p> <p>さらに、平成25年からの6年間は、萬古陶磁器工業協同組合主催の萬古焼技術者育成研修「やきものたまご創生塾」の講師を務め、19名の研修生を指導してきた。</p> <p>その他にも、保育園、小学校、大学、地区センター、老人会などで陶芸教室を開催するなど、地場産業である四日市萬古焼の魅力を伝える活動を行っている。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：写真分野

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>おかむら なかえ 岡村 仲江 (74 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、平成9年に全日本写真連盟三泗フォトクラブに入会し、本格的に写真を始め、平成16年に「みえ県展」で最優秀賞、平成23年に「四日市市美術展」で市長賞を受賞しているほか、全日本写真連盟主催の国際写真サロンにおいては、これまでに5回の入選を果たすなど、数多くの受賞歴を有する。</p> <p>三泗フォトクラブの支部例会では、派遣講師と共に会員への指導に携わっており、女性ならではの優しい指導が功を奏し、多くの会員を各種コンテストの入賞、入選に導いている。また、全日本写真連盟三重県本部北勢地区5支部による合同撮影会とコンテストを立ち上げ、他支部の会員同士が交流を図る機会を創出した。現在は毎年各支部持ち回りで開催されており、北勢地域の写真文化の向上と発展に繋がっている。</p> <p>さらに、平成23年には、写真コンテストの実績と三泗フォトクラブでの活躍を高く評価され、全日本写真連盟三重県本部の委員に推薦され、以降、三重県本部主催のコンテストの審査や講評を精力的に行い、三重県本部の事業推進並びに会員拡大に尽力している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：写真分野

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>のせ 野瀬 みつ子 (64 歳)</p>	<p>松阪市</p>	<p>氏は、平成 15 年に全日本写真連盟久居支部に入会し、本格的に写真を始め、これまで、「松阪市美術展」、「津市美術展」で市長賞、「みえ県展」で優秀賞を受賞している。また、全日本写真連盟の三大コンテストのうち、「全日本写真展」では銅賞をはじめ、3 回の入賞、1 回の入選、「日本の自然」写真コンテスト」では 2 回の入選を果たすと同時に、最難関の「国際写真サロン」では最高賞の審査員特別賞と 5 回の入選を果たすなど、数多くの受賞歴を有する。</p> <p>平成 26 年から 27 年までは、全日本写真連盟久居支部の支部長を務め、支部の運営や会員への作品指導に尽力してきた。令和元年からは全日本写真連盟三重県本部の事務局長に就任し、県内 18 支部のとりまとめや事業運営の重責を担っている。</p> <p>その他にも、全日本写真連盟中部本部の委員として、三重県内各支部の月例会において講師を務め、後進の育成に尽力するとともにフォトコンテストへの積極的な応募を奨励し、写真文化の普及に努めている。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：美術分野（美術工芸、染色）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>ひろやま みちよ 廣山 三千代 (68 歳)</p>	<p>桑名市</p>	<p>氏は、高校卒業後、東京の文化服装学院にてデザイン、テキスタイル、色彩心理学を学んだ後、染色に関心を持ち、有松絞りの研究を行うとともに、京都の川島テキスタイルスクールにて草木染や藍染を学び、現在は染色家として活動している。</p> <p>これまでに「みえ県展」で優秀賞、「日本美術展覧会」「中部染色展」「新匠工芸会展」で入選を果たすなど、数多くの受賞歴を有する。「日本現代工芸美術展」においては、3回の入選を果たし、令和3年には会友に推挙された。</p> <p>また、自宅のアトリエや四日市市中部地区市民センター、桑名市の大山田公民館において、染色教室を開き、後進の指導に尽力してきたほか、現在は桑名市文化協会美術工芸部門の理事を務めており、桑名市市民展や桑名市文化芸術祭の運営に携わっている。</p> <p>さらに、個人でも四日市市文化会館やパラミタミュージアム、くわなメディアライヴなどの県内各所で年3回の個展を開催し、幅広い層へ染色の世界を普及させるために積極的に活動している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>まえだ のりこ 前田 典子 (81 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、昭和 60 年に金子兜太主宰の「海程」に入会し、本格的に俳句を始めた。「海程」のほか、地元の「伊勢俳談会」や桂信子主宰の「草苑」にも所属し、佳作を発表してきた結果、平成 8 年に「現代俳句協会全国俳句大会」で毎日新聞社賞、平成 27 年に現代俳句協会の最高賞の 1 つである年度作品賞、平成 28 年に俳誌「海程」の海程賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、東海地区現代俳句協会や中部日本俳句作家会、三重県俳句協会、嶋田青峰顕彰会、俳祖守武翁顕彰会が主催する各俳句大会において、選者として佳作を抄出しているほか、平成 12 年から平成 22 年までは朝日新聞三重版文芸欄の俳句選者を務めた。さらに、椿大社献詠祭等において小中学生や高校生対象の選考・講評にも関わるなど、幅広い人材の発掘、育成に尽力してきた。</p> <p>一方、地元の伊勢市では、伊勢が生んだ俳祖荒木田守武翁の顕彰会の幹事並びに選者として、また伊勢市で開催される「八朔参宮俳句会」、「二見町俳句大会」、「二見おひなさま俳句大会」等の選者、伊勢市総合文化誌「伊勢ぶんか」において、各号テーマに沿った誌面の作成に協力するなど、地域の俳句文化の発展に貢献している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：音楽分野（作曲及び音楽イベントの実施）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>こばやし すみお 小林 純生 (39 歳)</p>	<p>東京都 (菟野町出身)</p>	<p>氏は、平成 21 年に日本音楽コンクールで入賞して以来、作曲家として、現在に至るまで作曲活動を続け、国外でも作品が取り上げられている。国内外のコンクールにおいて、平成 25 年に「武満徹作曲賞」第 2 位、平成 28 年に「欧州文化首都ヴロツワフ国際作曲コンクール」（ポーランド）第 1 位など、数多くの入選、入賞を果たしてきた。</p> <p>また、平成 28 年に設立した伊勢志摩芸術催事実行委員会では、「伊勢志摩国際作曲講習会」をこれまでに 5 回開催し、世界各国の若手作曲家の指導を三重県で行ってきた。そのほか、「伊勢志摩国際ピアノコンクール」「伊勢志摩国際作曲コンクール」など、三重県に根差した、伊勢志摩の名前を冠する音楽コンクールに携わり、これまでに 1,100 人以上の世界各国の音楽家が挑戦している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：その他分野（建築）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>さとう けい 佐藤 敬 (34 歳)</p>	<p>東京都 (桑名市出身)</p>	<p>氏は、大学、大学院で建築学を学んだ後、建築設計事務所にて建築の実務を経験し、国内外の建築プロジェクトに参加した。その後、令和元年に独立して、日露建築家ユニット「KASA/KOVALEVA AND SATO ARCHITECTS」を設立し、東京とモスクワを拠点に活動している。</p> <p>令和元年には、桑名市の善西寺が取り組む「りてらプロジェクト」と協働して発表された「蓮のある風景」が、鹿島出版会の主催する「SDレビュー」において、「鹿島賞」を受賞し、多方面から注目を集めた。</p> <p>また、令和3年には、イタリアで2年に1度開催される「ヴェネツィアビエンナーレ国際建築展」に参加し、ロシア館の改修設計及び展示を手掛け、「特別表彰」を受賞するなど、国際的な舞台においても活躍している。一連の活動が評価され、AWARD ELLE DECORATION BEST OF THE YEARにおいて、「BEST ARCHITECT 2021」を受賞した。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：音楽分野（ピアノ）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>むらやま ひびき 村山 響</p> <p>(31 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、平成 19 年に全日本学生音楽コンクール名古屋大会中学校の部で第 2 位、平成 21 年にみえ音楽コンクール高校生の部で第 1 位になるなど、中学、高校時代からピアニストとして活躍した。高校卒業後は東京芸術大学に進学し、その後、ドイツの大学院でピアノを学び、平成 30 年にフィナーレ・リグレ国際ピアノコンクールのファイナリストとなったほか、平成 31 年には、ロンドン国際音楽コンクールで第 1 位となるなど、国内外で数多くの受賞歴を有する。</p> <p>令和 2 年に帰国した後はピアノリサイタルやコンサートに出演するなど、積極的に演奏活動に取り組んでいる。</p> <p>また、令和 3 年からはピアノ指導も始め、みえ音楽コンクールの本選に出場した生徒を輩出するなど、後進の育成にも尽力している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：美術分野（彫刻・立体造形）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>やまだ ふうが 山田 風雅 (24 歳)</p>	<p>亀山市</p>	<p>氏は、小学生の頃から子ども絵画教室に通い、絵画制作を行ってきた。県立飯野高校応用デザイン科入学後は、彫刻コースで立体作品の制作を行い、高校在学中から「鈴鹿市美術展」や「亀山市美術展」に積極的に応募し、数多くの入賞を果たしてきた。</p> <p>その後、大阪芸術大学に入学し、平成 30 年に「みえ県展」で最優秀賞を受賞したほか、「亀山トリエンナーレ 2017」にも作品がノミネートされ、多くの来場者の称賛を浴びた。</p> <p>大学卒業後も県立高校の美術科非常勤講師として勤務しながら積極的に作品制作を続けており、令和 2 年には「二科展」で入選を果たした。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

第21回 三重県文化賞の概況

1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

2 募集期間

令和3年8月2日から10月1日まで

3 受賞候補者の状況

文化大賞	7名	
文化功労賞	10名	
文化奨励賞	17名	
文化新人賞	10名	総数 44名

4 受賞者の状況

(1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野											計
	文学	美術	音楽	演劇・舞踊	写真	メディア芸術	伝統芸能	生活文化	学術	伝統工芸	その他	
文化大賞									1			1
文化功労賞			1				1	1				3
文化奨励賞	1	2			2							5
文化新人賞		1	2								1	4
計	1	3	3		2		1	1	1		1	13

(2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞						1					1
文化功労賞				2			1				3
文化奨励賞	1	2			1	1					5
文化新人賞			1	1						2	4
計	1	2	1	3	1	2	1			2	13

三重県文化賞歴代受賞者（第1回～第21回）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村 憲司（児童文学）	勝美 伊三次（日本舞踊） 保黒 時男（植物生態学調査）	あの津っ子の会（児童文学） 伊勢管弦楽団（交響楽） 伊藤 宏樹（吹奏楽） 落合 花子（詩歌） 川端 守（地域づくり活動）	新井 明子（演劇） 津手づくり絵本の会（児童文学） 坪井 智子（箏曲） 伴 剛一（作曲活動） 東川 和子（川柳） 平田 環（俳句）
第2回	平成14年度	（該当者なし）	亀山絵本と童話の会（児童文学） 坪島 土平（陶芸） 三重ヴォークスポーナ（合唱）	伊勢シンフォニックバンド（吹奏楽） 菅生 三千代（箏曲） 羽場 正一（演劇） 黛 元男（詩歌） 南川 憲生（彫刻）	池田 比早子（ひのきクラフト） 鎌田 美津子（写真） ゴルジ隊（演劇） 阪野 優（マンボ研究） 田中 豊（演劇） 中森 勉（写真） 平賀 節代（俳句） 森田 茂治（詩歌）
第3回	平成15年度	稲垣 克次（彫刻）	川北 佐平治（伝承芸能） 中村 武郎（ギター・マンドリン） 山口 勲（俳句）	金子 聡（環境科学研究） 北住 淳（ピアノ演奏） 近藤 英子（彫刻） 森 一蔵（萬古焼） 山内 玲子（箏曲）	石井 烈（俳句） 佐々木 経子（俳句） 東 勝美（児童文学） Building Bridges （文化資産等の保護） 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN（津軽三味線） 三浦 恭子（インド舞踊） 水野 昌光（地域の映画館を 活用した市街地活性化）
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》（合唱）	岡村 信也（吹奏楽） 土屋 喜八郎（能楽） 中林 長生（俳句）	笠井 幹夫（オペラ） 木岡 ふみ子（箏、三絃） 佐々木 宏子（ピアノ演奏） 清水 正明（郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介） 谷口 智行（俳句）	阪本 青悠（書） 高崎 一郎（詩） 中山 かほり（吹奏楽） 藤田 智子（箏、十七絃等） 松田 実靱（小説） 三重大学ダンス部（ダンスの創作）
第5回	平成17年度	野口 巳織子（日本画）	関宿町並み保存会 （関宿の町並み保存） 田村 美保子（大正琴） 間瀬 昇（評論、小説）	田村 公男（洋画） 東海 かおり（箏、三絃） 福山 良子（俳句） 松嶋 節（小説） 山村 楽女（日本舞踊）	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” （童話） 麻植 慶治（雅楽） 奥山 和子（俳句） 後藤 千佳子（筆名；伍東ちか） （現代詩） 津村 美香（フラワーデザイン） 人情集団An-Pon-Tan （バリアフリーミュージカル）
第6回	平成18年度	谷本 光生（伊賀焼）	岡森 章（伊賀焼） 森 浩一（能楽・狂言）	川島 雅樹 （声楽・オペラ・合唱） 水谷 幸勉（工芸美術） 宮村 典子（川柳） 村上 しいこ（童話） 三重オペラ協会（オペラ）	佐藤 千恵（俳句） みえ熊野学研究会 （地域資産研究）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第7回	平成19年度	宮田 正和（俳句）	越知 愛幸子（合唱） 中川 忠峰（根付） 吉居 清雄（堅塩作り）	中山 かほり（吹奏楽） 西田 誠（俳句） 秦 昌弘（郷土作家の研究） 服部 博之（和太鼓） 馬場 浩子（声楽）	アモーレかめやま（大正琴） 梅山 憲三（現代詩） 垣内 美穂（詩・児童文学） 桐生 智晃（吹奏楽） 葛原 郁子（短歌） 現代邦楽奏団グループ竹友（邦楽） 比留間 雅弥真天（邦楽）
第8回	平成20年度	小野 雅生（洋画）	稲垣 無得（書） 倉田 しげる（俳句）	伊藤 政美（俳句） 岩崎 孝子（洋画） 津田 親重（日本画） 野村 幸廣（ミュージカル） 山本 翠松（伝統漆工芸）	秋野 信子（詩・小説） 岡本 妙子（詩） 劇団員弁川（演劇） 福田 容子（俳句）
第9回	平成21年度	園田 幸男（吹奏楽）	赤井 重規（能楽） 原 直矢（彫刻） 鍋島 泰（方言の研究）	橋本 輝久（俳句） 三重県吹奏楽連盟（吹奏楽） 田中 厚好（彫刻） 青木 久佳（短歌） 岸 武男（演劇）	山口 道子（版画） 前田 照子（俳句） やまぎり 萌（現代詩） 林 英一（多文化共生の研究） 長岡 むつみ（リコーダー指導） 中川 左和子（短歌）
第10回	平成22年度	長島 幹生（写真）	相賀 泰（神楽） 衣斐 弘行（評論・小説の執筆、郷土作家の顕彰） 川合 俊平（合唱）	小河 柳女（川柳） 津奈乃会（邦楽） 矢田 新男（写真） 矢吹 紫帆 （音楽による地域振興）	小早川 涼（小説） 佐藤 ゆかり（女性史の研究） 多気町劇団白つばき（演劇） 橋倉 久美子（川柳） 橋本 石火（俳句） 堀内 晶（地域の歴史・文化と戦争体験の語り継ぎ） 村田 三郎（地域文化の紹介と観光ボランティアガイド） 村山 砂由美（詩）
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 （声楽・合唱・オペラ）	田嶋 禮子（マリンバ） 玉置 千代（児童文学） 野嶋 峰男（木漆工芸）	伊藤 清和（美術の振興） 神田 ひろみ（俳句・評論） 清崎 博（安乗の人形芝居） 山崎 龍芳（伊賀焼） 四日市ジュニア・アンサンブル （合奏等）	越知 ひとみ（音楽の普及） 小津 由実（俳句） 斎宮アカデミー（歴史・文化） 清水 潮（萬古焼） 中西 紀和（陶芸）
第12回	平成24年度	橋本 三重子 （日本画、書道）	伊藤 政美（俳句） 角谷 英明（陶芸） 菅生 和光（吹奏楽、指揮者）	桐生 智晃（吹奏楽） 坂尾 富司（写真） 中村 かおる（箏曲） 西田 真也（陶芸） 三重県陶芸協会 （「焼きもの」の振興）	真山 隼人（浪曲） 志摩市俳句協会（俳句） 手塚 泰子（俳句） 西村 健二（郷土史研究） 堀川 孝子（詩） 村松 とし子（短歌）
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー 交響楽団（交響楽）	羽場 正一（演劇） 羽根 功二（合唱） 森 悦彦（作詞・作曲）	小川 匪石（書） 紀の川良子と市民劇団 （演劇を通じた地域振興） 阪本 青悠（書） 達知 和子（短歌） 比留間 雅弥真天（箏・三弦）	岩田 典子（俳句） 服部 真紀子（陶芸） 廣 めぐみ（声楽）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第14回	平成26年度	加藤 子華（書）	谷本 景（伊賀焼） 森 正（陶芸） 脇谷 実千子（児童文学）	尾崎 亥之生（俳句） 武村 豊徳（陶芸） 伴野 節子（箏・三絃） 吉川 光和 （競技かるたの読み手） 吉崎 柳歩（川柳）	伊藤 圭佑（津軽三味線） つげ みさお（児童文学） 西田 昂平（声楽） 和太鼓 凛（和太鼓）
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月（陶芸）	加藤 純一（詩吟） 福田 勝（能楽） 松山 好成（組紐）	印藤 幸恵（陶芸） 坂口 緑志（俳句） 田邊 三郎（写真） 中井 智弥（箏曲） 安田 隆亮（絵画）	牛場 寿子（写真） 大形 弥生（木工） 駒田 早代（津軽三味線） 野瀬 みつ子（写真） 平野 透（俳句）
第16回	平成28年度	錦 かよ子（作曲）	石井 いさお（俳句） 矢田 新男（写真）	梅山 憲三（現代詩） 岡本 千尋（俳句） 加藤 秀樹（陶芸） 憲旺会（尺八） 伴 剛一（作曲）	伊藤 潤一（書） 前田 祐英（木工） 森川 眞理子（パステル画） 森下 充子（俳句） 横田 千明（彫刻）
第17回	平成29年度	合唱団「うたおに」（合唱）	井上 博暁（俳句） 菊川 淑子（能） 桐生 智晃（吹奏楽）	牛場 和美（写真） 紺谷 猛（小説） 近藤 たみ（陶人形） 藤原 伸久（小説） 森 玲子（箏曲）	赤野 四羽（俳句） 岡島 千秋（俳句） 久保 恵子（詩・児童文学） 小林 美咲（声楽） 白木 千華（陶芸）
第18回	平成30年度	林 克次（陶芸）	多門 志風（水墨画） 恒岡 光興（伊賀焼） 西川 里寿（日本舞踊）	現代邦楽奏団「新しいぶき」 （邦楽） 谷本 雅一（石彫刻） 辻井 甫山（尺八） 戸田 真樹（文芸評論） 西尾 敬一（俳句）	岩田 優里愛（ヴァイオリン） 高藤 典子（詩・短歌・俳句） 竹内 洋司（尺八） 藤田 哲也（日本画） 森本 昭子（俳句）
第19回	令和元年度	大川 吉崇（郷土文化）	荒木 友梅（書道） 河俣 和子（合唱） 橋本 輝久（俳句）	遠藤 昭己（小説・詩） 女声合唱 Luce（合唱） 名張こども能楽囃子教室実行委員会 （能楽囃子） 平賀 節代（俳句） 村山 昌子（小説・童話）	岩名 泰岳（絵画） 小川 はつこ（散文） 川淵 皓平 （竹製ランプの制作・演出） 清水 ゆん（短歌） 橋本 莉（大正琴）
第20回	令和2年度	菅生 和光（吹奏楽・指揮）	兼重 直文 （ピアニスト・音楽指導者） 坂尾 富司（写真） 津女声合唱団（合唱）	加藤 訓峯（邦楽） 中川 瑠雲（書道） 橋倉 久美子 （川柳・エッセイ・小説） 林田 さなえ（ガラス工芸） 松阪もめん手織り伝承グループゆうづる会 （松阪木綿）	加藤 ひろな（デザイン） 中村 栄宏（リコーダー） 百地 拓窓（書道）
第21回	令和3年度	川口 祐二 （地域伝統文化の保存啓発活動）	佐々木 洸舟（書道） 谷本 善聖（民謡・三味線） 養正コーラス（合唱）	稲垣 竜一（陶芸） 岡村 仲江（写真） 野瀬 みつ子（写真） 廣山 三千代 （美術工芸・染色） 前田 典子（俳句）	小林 純生 （作曲及び音楽イベントの実施） 佐藤 敬（建築） 村山 響（ピアノ） 山田 風雅（彫刻・立体造形）